

あかし教育研修センター通信

教育課題
特別講座

自分磨きの夏 2018

第2回

「主体的・対話的で
深い学び」を実現する！！

8月8日（水）“第2回教育課題特別講座”を開催しました。今回は、文部科学省視学官として新しい学習指導要領の改訂に関わられた國學院大學の田村学教授をお招きしました。新しい学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善の視点について、その思いを伺いました。授業風景の子どもたちの表情をたくさんの写真で示しながら、「深い学び」は「熟考」する子どもの姿、自ら考え、自ら取り組む姿、知識・技能をつなぎ関連付ける姿に見られる。そのためには、教師は見通しをもち、異なる多様な他者との対話の場を設定し、文字言語で丁寧な振り返りをさせる授業改善が必要である。と語られました。「“深い学び”のある授業とは…」と、熟考する参加者の姿がありました。



國學院大學
田村 学 教授

第3回

～学校における
自殺予防の進め方～



関西外国語大学
新井 肇 教授

8月10日（金）“第3回教育課題特別講座”を開催しました。今回は、「学校における自殺予防の進め方」と題し、関西外国語大学の新井肇教授をお招きしました。昨年度（2017年）自殺者総数21,321人、そのうち未成年者は567人、学校が再開する2学期のはじまりは、希死念慮が高まる危険な時期。アニメやSNSなどの仮想的な空間と親密な関係にある子どもの中に「死んだ人は生き返る」という死生観をもつ子どもがいる。子どもたちに「現実」と「非現実」の区別を認識させてやる必要がある。学校では、「多様で豊かな人間関係にふれる体験」をさせることが大切。危機のときにつなぎ留める存在がいる。一緒に何かやることを通じて「この人と話したい」「この人といたい」個人や家庭を超えた「絆」を育むことができる。教師は自殺予防の大切なキーマン「信頼される大人」「サインに気づいてあげる大人」が身近にいることは、とても大切なこと。ただ、一人で抱え込まず、適切に依存することを心がけること。子どもに寄り添い、子どもの気持ちをわかるうとする教師が求められる。もうすぐ2学期です。よい“聴き手”になることから、はじめてみてはどうか・・・というアドバイスをいただきました。

●独立行政法人 教職員支援機構(NITS)のHPで関連動画がご覧いただけます。

「NITS 田村学」または「NITS 新井肇」で検索してみてください。

発行：あかし教育研修センター

〒673-0882 明石市相生町2丁目5番15号 明石市役所北庁舎（旧保健センター）

TEL：078-918-5815 FAX：078-918-5817

E-mail: ed_center@city.akashi.lg.jp